

令和6年度第2回庄原市道德教育推進委員会研修会兼人権教育研修会

■日 時:令和7年1月27日(月) 13:15~16:35

■場 所:庄原市立東城小学校

■対象者:庄原市内各小・中学校の道德教育推進教師22名

- 【目的】・ 児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」につながる道德科の授業づくりのポイントについて研修を行い、具体的な指導方法を学ぶことができる。
- ・ 学校全体での組織的な道德教育推進に向け、各校の取組について交流することを通して、次年度の計画の見通しをもつことができる。

研究授業「ぐみの木と小鳥」

授業者 東城小学校 教諭 砂走 敏和

事後協議「道德科の充実に向けた授業の在り方について」 庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子
指導・助言 広島県北部教育事務所 指導主事 田丸 亜紀



【事後協議、指導・助言の概要】

- 事後協議では、「本時における具体的な児童の姿について」「学びの変革」授業参観シートを用いて4つの視点について、協議を行った。児童の具体的な姿から指導者の手立てについても考えることができた。
- 考え議論する授業に向けて、自分とのかかわりで考えを表現することが大切である。どの子も考えを表現できるような指導の工夫が多く見られた。児童生徒の多様性が背景にあり、すべての児童生徒に共通体験をさせておくことが必要になってくる。本時に向けたストーリーは大変参考になる。

【参加者から】

- ・ 学習指導案にあった、本時に向けたストーリーを作成することにより、教科を横断し、日々の生活に道德の学習を活かしていけると感じた。道德の授業を見る機会がないので、研究授業があり参考になった。
- ・ 書いたり伝えたりする表現方法だけでなく、動作化を取り入れたり、心や色を違うもので表現させるなどして多様な表現方法を本校の授業づくりでも活用したい。
- ・ 「新しいものを」と型にとらわれるのではなく、シンプルに児童のつぶやき、発言を価値につなげる切り返しを行い引き出すなど、基本を大切にしたいと思った。

実践交流・演習「今年度の取組と次年度に向けて」

庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子



各校が作成した全体計画をもとに取組について見直しをしている様子



【実践交流及び指導・助言の概要】

- 人権教育で育むべき三つの要素や、人権教育の視点に立った学校づくりについて講話を行った。
- 第1回研修会で計画した活動計画をもとに、今年度各校が実施した道德教育に係る研修内容等を交流した。

【参加者から】

- ・ 交流して改善・加筆した活動計画を来年度版にして作成し、次年度担当が変わってもスムーズに道德教育推進教師の活動ができるようにしたい。
- ・ 授業だけではなく、教育活動全体を通じて行う道德教育の具体的な場面や活動の工夫を行いたい。
- ・ 今後は計画的・定期的に研修を行い、「所見の書き方」など情報共有や意識の統一を図っていきたい。